

東海市立渡内小学校 住 所 東海市荒尾町義呂1-1 電話番号 052-604-0666 児童 402名 校長名 神野真輔 ｸﾗｽ 16学級(内 特支2)		○教育目標 ・広い知識 豊かな心 強い体 ○めざす子ども像 ・広い知識と正しい判断力をもつ子 ・礼儀正しくおもいやりの心をもつ子 ・心身ともに健康でたくましい子 ○経営方針 ・児童にとって魅力がある学校づくり〔学思行相須ツ〕 ・児童が、明るく良好な人間関係を築くことができる学校づくり〔先施の心〕 ・児童が、心身ともに健やかに成長できる学校づくり〔勇なるかな勇なるかな、勇にあらずして何をもつて行わんや〕				資料
期 目標	今年度の目標	評価方法 (アンケート項目)	結果の分析	課題と対応策	学校関係者評価 【実施日】令和8年2月6日	来年度の改善策
基礎・基本の徹底を図り、自ら課題を見つけ、自ら解決しようとする力の育成	子ども理解を深め、一人一人の個性・能力に応じた支援を行う。	学校評価アンケート 児童：先生は熱心に指導くれる。 児童：先生は、がんばったことをほめてくれ、いけないことはしかってくれる。 保護：先生は、よいところは褒め、悪いことはきちんと指導している。 保護者：職員は子どもを大切にしてくれている。 教師：児童のよいところを認め、褒めている。 教師：発達障害について理解を深め、全ての児童にわかりやすい授業を進める努力をしている。	(評価A) 児童の肯定的な回答は、二つの設問ともに95%を超えている。教師の発達障害を含めた児童理解が児童への指導につながっていると考えられる。	日頃の児童との関わりに加え、行事等で児童が活躍する場面も逃さずに、児童のよさを認め、褒めていきたい。また、保護者と話し合い、連携を取り合いながら、児童一人一人の理解に努め、成長を促す指導・支援を進めていく。	授業公開等の様子からも、児童は落ち着いた学校生活を送っている。今後とも児童一人一人と向き合い、保護者と連携して指導・支援を進めて行くことが大切だと考える。	・日頃の児童との関わりに加え、行事等で児童が活躍する場面も逃さずによさを認め、褒める。 ・児童一人一人の理解に努め、家庭との対話を大切にしたい支援を続ける。
	わかる授業、楽しい授業に取り組む。	学校評価アンケート 児童：授業は楽しい。 児童：授業の内容はよくわかる。 教師：楽しい授業を実践している。 教師：わかる授業を実践している。 教師：ICTを有効に活用した授業を実践している。 保護者：先生はわかりやすい授業をしている。 児童：タブレットを使った授業は楽しい。 児童：タブレットやデジタル教科書などを使った授業は、わかりやすい。 保護者：渡内小はICTを活用した授業を行っている。	(評価B) 授業が「楽しい」「わかりやすい」と思っている児童は90%を超えている。教師の「ICTを有効に活用した授業」は肯定的な回答が9%上昇している。デジタル教科書や調べ学習での活用は日常となり、その他の機能をどのように活用するのが有効かを教師が模索している段階にあると考えられる。	さらに「楽しく」「わかる」授業に向けて、多くの手立てをもって授業の展開をしていく必要がある。ICTについては、今後とも「有効な活用」に向けて研修と実践を積み重ねていくとともに、授業公開等で保護者に見ていただき、ご理解いただく必要がある。また、電子図書サービスも授業で活用できるようにしていく。	タブレットを家に持ち帰ることもできるので、学校を欠席した子、不登校等で学校に来れない子にも、うまく活用していけるとよい。	・他校の実践も参考にし、ICTを不登校児童等の学習に活用できないか検討する。 ・ICTの効果的な活用を含め、研修と実践を積み重ねる。
他を思いやる心・自主的にはたらきかける力の育成	あいさつ・返事を習慣化させる。	学校評価アンケート 児童：家族や旗当番、地域の人にあいさつをしている。 保護者：児童は家庭内や地域であいさつをしている。 地域：児童はあいさつをしている。 教師：あいさつ・返事の指導をしている。 教師：児童はあいさつをしている。 教師：率先してあいさつをしている。	(評価B) 児童、保護者共に家庭であいさつができていると回答している割合が高い。家庭外では、児童と保護者の結果が大きく乖離している。家庭内と比べ、家庭外でのあいさつは十分でないと捉えている保護者が多いと考えられる。	校内では、自分からあいさつしたり、教師のあいさつに応じたりできる児童の姿があるが、決まった児童の印象である。校外でのあいさつを含め、児童自身があいさつの意味を理解し、地域でも行動できるよう、学校と家庭の両方からの子ども達に対する働きかけをしていく。	登校時や児童館などでは、あいさつのできる子は少ない。自分たち大人ができるように、自分たち大人がしっかり顔を見て子どもたちに挨拶をして、日々の習慣にしていけることが大切である。	・児童にあいさつのよさを伝え、教師を始め大人が率先してあいさつをする。 ・PTAやコミュニティを通して、家庭や地域での働きかけを依頼する。
	学校のルールを守り、社会のルールも守ろうとする意識を育てる。	学校評価アンケート 児童：学校のきまりを守って学校生活をしている。 児童：交通安全に気をつけ、交通ルールを守っている。 児童：公園等では、他の利用者に迷惑をかけていない。 保護者・地域・教師 ・子どもたちは、交通安全に留意して生活している。 ・公園等では、他の利用者に迷惑をかけていない。	(評価B) ほとんどの児童がきまりやルールを守れていると考えているが、大人、特に保護者の結果が大きく隔たりがある。また、教師と地域は昨年度よりも値が下がっている。	多くの児童はルールを守ろうと生活している。しかし、校外では、気持ちが緩んだり、羽目はずしてしまったりする児童がいると考えられる。ルールだけでなく、相手の気持ちを考えるマナーも、道徳や学活の学習で伝えていく。	公園で自転車を道路にはみ出して駐めたり、児童館で坂を自転車で勢いよく下りていったりする児童が後を絶たない。校外学習の機会に、危険な場所を確認する方法もある。また、保護者が子どもの遊ぶ様子を知る必要がある。	・教育活動を通して、粘り強く指導していく。 ・家庭、地域に実態を伝えながらタイムリーな啓発活動を行う。
健康な心身の育成	健やかな心を育てる。	学校評価アンケート 児童：渡内小が好きである。 児童：学校生活は楽しい。 児童：相談できる先生がいる。(相談できる) 児童：先生以外に相談できる人がいる。(家族・友人) 保護者：職員は、子どもを大切にしてくれている。 保護者：職員は、相談しやすい。	(評価B) 「学校が好き・楽しい」と答えた児童は約95%と高い値を示している。約90%の児童が誰かに相談できると答えている。しかし、どの項目にも「まったくあてはまらない」とした児童や保護者が一定数おりそこに焦点を当てる必要がある。	学校が楽しくない、相談する相手がいないと答えた児童が一定数いることから、教師が、日々児童一人一人の様子を見取り、声をかけ、家庭との密な連絡を継続していき、必要に応じて関係諸機関との窓口となるよう努める。	教師と一人一人が話をすることができると答えた児童が一定数いるが、一人一人の児童が先生と話ができる時間は、非常に短いと聞いている。1学級の児童数も多く、大変だと思うが、できるだけ子どもと向き合う時間をとれるようにしてほしい。	・教育相談の日にちを1日増やし、一人一人の児童と向き合える時間を確保する。 ・「SOSミニレター」等外部の窓口も含め、さまざまな相談方法を周知する。
	規則正しい生活、食育指導に取り組む。	学校評価アンケート 児童：家で学習をしている。 児童：規則正しい生活をしている。 児童：好き嫌いをなく、自分で量を調整して、給食を食べている。 保護者：学習習慣がつくよう配慮している。 教師：家庭学習を課し、家庭での学習習慣を身につけさせている。 教師：給食を好き嫌いをなく、自分で量を調整して、残さず食べるよう指導している。	(評価B) 家庭学習や規則正しい生活に対する児童自身の評価は約80%であり、保護者のも同程度であることから、学校と家庭との連携が大切である。給食の設問では、「残さず食べている」と回答した児童が増加している。	家庭学習や生活習慣については、懇談会や日常の連絡等での個別の働きかけや、啓発活動を続けていく。給食については、学年が下がるにつれ、食缶に食べ残しを戻す児童が多い。市内でも特に残食が多い。自分の食べられる量を把握させるとともに、食育を強化し、さまざまな食材や料理に関心をもたせていく。	学校から出される宿題以外の学習は、各家庭でさまざまである。児童が興味をもったことについて取り組んだり、調べたりすることは、長い目で見ると児童の大きな力となるため、大切にしたい。	・懇談会や日常の連絡等で、個別の働きかけや啓発活動を続けていく。 ・委員会活動等も利用し、食の大切さや楽しさを考える指導をする。
保護者や地域に開かれ、信頼される学校づくり	学校教育活動の公開に努め、各種たより等の充実を図る。	学校評価アンケート 教師：学校の様子を知らせている。 保護者：知りたい情報が盛り込まれている。 地域：学校の様子が変わる。	(評価B) 保護者の肯定的な回答は上昇し、地域住民は、下がっている。今年度より学年だよりや行事の様子等をe-メッセージで配信し、ホームページでの公開を減らしたためだと考えられる。	家庭や地域のニーズを把握しながら、e-メッセージや各種たよりによる情報提供に努めていく。地域住民の皆さんに関しては、引き続き学校だよりの回覧や、コミュニティ運営委員会での教頭からの連絡の機会に、学校についてより詳しく周知していくように努める。	現在は、コミュニティ関係の方々にアンケートをとっているが、広く多くの方にアンケートをとることで、ホームページを見たり、学校に関心をもったりするきっかけになるのではないかと。	・児童の実際の様子も見ていただける機会を設ける。 ・必要な情報を、必要なときに伝えていけるよう、努める。
	地域人材の活用に努めるとともに、地域行事への参加を呼びかける。	学校評価アンケート 教師：地域の教育力を生かしている。 保護者：地域の人材を活用している。 地域：協力依頼があれば、協力したい。 地域：学校は、地域の活動や行事に協力している。 地域：地域の行事等で子どもとふれ合っている。	(評価B) 教師の92%(昨年度より18.4%増加)の教師が地域の人材を生かしているという回答しているのに対し、保護者は71.5%と低い。日本伝統文化体験等で外部講師等を多く招いているが、保護者にはあまり伝わっていないと考えられる。	地域の人材活用は児童の成長に必須であるため、来年度以降も継続し、その活動の様子を、今後も粘り強く学校だよりや学年だより等で発信していく。	以前はコミュニティの夏祭りや秋祭りなどで日本伝統文化体験の活動を地域の方に見てもらえる機会があった。学校の事情もあるが、その機会が無くなってしまったことが、地域住民の回答に影響しているのではないだろうか。	・外部講師の活用を今後も継続し、効果的に活用していく。 ・地域の教育力の活用について、保護者にも粘り強く発信する。